

平成 28 (2016) 年度『学内留学』(SGH 課題研究基礎力養成講座) 第 2 回実施報告

はじめに (GL校・SGH校指定後、北野高校のグローバル教育が目指すもの)

指導教諭 M.K

「国際人としての資質を養う」ためには、世界を視野にいれることが必要である。本校では、1990年からシアトルにある姉妹校との交流を行なっているものの、わずか数名が互いの国に10日程度滞在する程度のものであった。6年前、ソウル科学高校、大元外国語学校はじめソウル市内の9校を視察する機会を得、本校生の英語運用能力をアジア諸国並みに引き上げる必要性を痛感し、目標とした。現在ではハワイ大学研修(40名)、台湾研修(20名)、さらにシンガポール国立大学日本研究学部の協力の下、来春実施予定のシンガポール研修(40名)を新たに加え、実りある海外体験の機会を提供、また、香港や台湾等からの訪問団の受け入れを積極的に続けている。

若人の眼前にはグローバルな世界と未来とが、はるばると開けている。全教室のICT(電子黒板)の設置を果たし、日々の授業では外国人教員(SET、NET)とともに自己発信型の外国語教育に取り組み、土曜日実施のアジア人講師によるTOEFLセミナーでは、アジアの一員であることを意識した学習活動を実施している。この環境を地盤として、異なる知識や体験の交流、共有化への具体的な方策をすすめる、また、日常的学習の場も含めて、国際理解へのより一層の視野の拡大を図っていききたい。さらに「教師に与えられた勉強ではなく、自ら調べて考えないと、勉強は楽しいものでなく、伸びない」の理念のもと、アクティブラーニングの要素の多い『学内留学』に取り組み5年目を迎えている。

10月8日(土)に今年度第2回の講座を実施。グローバルな人材とは、人と積極的にコミュニケーションを図る資質、世界でさまざまな場所で何が起きているかを常に注視する姿勢、さらには自国の歴史、伝統文化を理解し尊重する態度が基盤になければならない。同じ犯罪でも、社会によりその刑罰は変わり、スーパーの商品の配置も異なり、環境問題に対する取り組みも様々である。自と他を常に意識することを通して、受講している生徒たちは徐々にグローバルマインドを獲得しているように思う。

それぞれの講座での講義内容と受講後の感想は以下の通り。

教育学担当 ピーター先生



法学担当 ダレン先生



ビジネス学担当 ランス先生



心理学担当 クレイグ先生



天文学担当 ジョッシュ先生



環境学担当 ノエル先生



A 講座 Education Course (教育学講座) by Mr.Peter Vande Veire

1年 Y.M

1) 1コマ目は、前回の復習で、VAKスタイルについて確認し、宿題であったスピーチの練習をペアで行いました。2コマ目は、スピ

一枚をなるべく原稿を見ずに言えるよう、ペアを替えながら練習をしました。その後、3つの英単語とその語の説明がついた紙がグループごとに配られ、その説明を簡単な言葉に直しながら要約文を作りました。もとの文を引用してはいけません。その後、他のグループで同じ言葉を考えた人と集まり、意味を確認しあいました。3コマ目は、3人のグループで2コマ目に作った文を発表しあい（ここで3×3の言葉が集まる）、これらをあわせたDiagram（絵+言葉）を作りました。その後、他の班のものも見て追加したり変えたりして、最後に短いプレゼンテーションを作りました。4コマ目は、いよいよ新しい内容、intelligenceの8つのパターンの説明があり、ノートをとりました。5コマ目は、もし自分が先生で小説の授業をするとしたらどうするかを考え、スピーチを考えました。

2) 1コマ目の復習のあと、教育学とは関連のない言葉の説明を考えたり絵を描いたり、一体私は何を学んでいるのだろうと思いました。でもプレゼンテーションを考えたとに、今自分たちがこの授業の中でしてきた手順を振り返り、ようやく、今してきた作業の中にVAKスタイルがいくつも使われていたことに気づきました。実際に体験したことで、各スタイルの違いや効果について考えることができました。

新しく習ったのはintelligence。はじめこの言葉を聞いて、理系的なイメージを思い浮かべましたが、8つも種類があることを知りました。5コマ目の、もし自分が授業をするならというワークは、どのような意図を持って活動を取り入れるかが難しかったです。交流する中で色々な方法で授業ができるとわかり、人それぞれで面白かったです。また、普段の授業でもこのように意図を持って行われているのかと思うと、少し授業への見方が変わったように感じます。

最後に、今回は授業への準備を怠ってしまったところがあるので、次回はしっかり備えて挑みたいです。

B 講座 Law Course（法学講座） by Darren Larson

1年 A.T

1時間目は、まず前回の授業でやった罪の名前とその意味についての確認をしました。その後2時間目の途中まで、宿題で調べてきたものの発表を行いました。班ごとに与えられた事例に対して課されるべき罪の種類とその理由について調べました。同じ種類の罪でも場合によって刑の重さが異なっていてとても難しかったです。また、ほかの班の人の発表を聞いてその判断について議論をするというのも、知識がなく基準がわからなかったのが難しかったです。2時間目の途中からと3時間目は死刑制度について話し合いました。私は死刑制度賛成だと考えていましたが、死刑制度の良い点と悪い点について整理して考えてみると難しい問題だなと感じました。4時間目と5時間目は違法運転について話し合いました。

様々な違法運転の中には、意外とやっちゃっている人は多いのではないかなと思うようなものもありました。また、私たちが普段自転車を運転しているときや歩いているときにやっちゃっているものもあり、危険だなと改めて実感しました。

今回の授業でいろんな人と意見交換をし、様々な視点を持つことができました。また、英語で自分の意見を相手に伝える難しさを実感することができました。

C 講座 Business Course（ビジネス学講座） by Mr. Lance Domotor

1年 T.H

1)内容

1st period 前回の復習

2nd period 宿題の確認

3rd period Case Study

4th period Case Study continued

5th period 次回の宿題について

2)感想

第2回の学内留学は、前回の内容の復習や、次の回の発表についてが中心で、1st periodや、2nd periodでは、「1時間前回の復習をして何になるんだろう」と思っていました。でも、3rd period、4th periodでその理由がわかりました。前回やったこと、そして今回復習したことが、Business Studyの基礎になっているということでした。Case Studyは主に製品ごとの違い（DIFFERENCES）を見つけたり、市場に影響するものを考えたりして、自分たちの製品を生き残らせるという、実際の社会に近いようなことを経験しました。また、それと同時並行で、効果的なスピーチの方法も学びました。

学内留学では、このようなことを英語で体験できる、いい機会だと思います。ついていくのさえ難しいけれど、自分なりに理解しよう、ついていこうとして得られるものはとても大きいと思いました。第3回は、今まで学んだことを生かして、2つのプレゼンテーションをします。製品の違いについてと、製品そのものを考えるプレゼンテーションです。しっかりと分析して、製品の違いやよさを伝えられるようにがんばりたいです。

1) 5時間のそれぞれの授業内容

1時間目は、前回の振り返りと、宿題の発表を行い、その後、今回のテーマである"conditioning"の紹介に入りました。2時間目は、"classical conditioning"についての説明、3時間目にその実例について考察し、4時間目には小さな実験を行いました。5時間目には"conditioning"のまとめと、4回目の授業でのグループ発表に向けて使える英語表現やポイントを教わりました。

2) 授業の感想

この学内留学を通じて、私は自身の英語でのコミュニケーション能力が格段に向上してきているのを感じています。その要因は、当たり前ですが先生・授業の質が高いことと、専門的な内容にも食らいついていく仲間の積極性だと思っています。

前回、今回と心理学の専門的な分野に取り組み、未知の単語や概念に触れる機会がたくさんありましたが、どうやら先生は私たちが何を理解しているかを理解していないのかわかっているようで、生徒の理解がひっかかったタイミングで、すかさず補足説明を入れてくれました。また、図やジェスチャーで具体例をたくさん示してくれるので、それらはすべて英語でしたが、私たちに外国語を使う不便さを感じさせることなく、自身の興味・関心や、英語でのコミュニケーションに挑戦することに全力を注ぐことができました。

そして、生徒同士の活動でも、刺激的な場面が多く、常に意欲的に学習することができました。特に今回は、"conditioning (条件付け)"に関する実験を行ったり、実際の広告に見られる"conditioning"をグループで考察するなど、自分の考えを英語で伝える場面が多かったので、積極的に意見を発信していく周りの仲間とともに、心理学の内容に食らいついていけました。

4回目の授業ではグループのプレゼンテーションがあります。全力で楽しんでいいものをつくりたいです。

- ・ 1時間目 前回出された課題の発表
- ・ 2時間目 太陽系の起源
- ・ 3時間目 星雲について
- ・ 4時間目 外惑星と内惑星の違い 大気について
- ・ 5時間目 次回までの課題に関する説明

授業の感想

第1回目ではネイティブの発音があまり聞き取れなかったが、第2回目では集中すればほぼ聞き取れるようになっており、自分に英語力がついてきたのがよく実感できた。普通の英語教室でもここまで英語を身近に感じさせてくれるところはめったにないと思う。自分の希望した学問を英語で教えてもらえるので、ほとんど集中を切らすことなく楽しく学べる。SGHのある学校を選んでよかった、と思える。オールイングリッシュの授業なんてめったに受けられないと思うので、一回一回の授業を大切に、あと2回分を有意義なものにしたい。そのために、今度からは授業の合間のちょっとした時間にも、今は友達と日本語でしゃべっているけど、少しでも意識して英語を使っていきたいと思っている。先生に質問もたくさんして行って、英語力とコミュニケーション能力の両方の向上をはかりたい。

2回目の今回の講座は、数字の読み方を学ぶことから始まった。数字の読み方なんて、と思うかもしれないが、分数や小数、ややこしい単位などがあると、意外に知らないものが多かった。次の2限目では、前回宿題として出ていた、水の循環に関する環境問題についての発表を、勿論英語で行った。宿題を家でやる時から大変だとは思っていたが、自分が発表するときのみならず、クラスメイトの発表を聞くときも、かなり頭を使った。その後ランチタイムを挟み、続く3、4限目では、酸性雨について学んだ。英語での授業なので、ある程度知識として知っていても、理解するのは容易ではない。最後の5限目では、プレゼンテーションのスキルについて教わった。何度も言うが、これも全て英語なので、最後まで気は抜けない。

そもそも私は英語があまり得意な方ではないが、この講座を受けて本当に良かったと思っている。というのも、英語と自分が興味のあることを同時に学ぶことができるからだ。特に英語は、遠い存在だったのに一気に身近に感じるようになった。苦手だからと目を背けずに参加して良かったと、今では言い切ることが出来る。